



「地域で働き続ける」

校長 田中 理子

夏休み中にお手紙が届きました。この春、地元の会社に就職した卒業生からです。在学中もよく私に作文を書いたら「校長室に掲示してください」と依頼する生徒さんでした。卒業してもこんな風に思いを他者に伝えられるとは素晴らしいことです。

手紙によると、会社では清掃作業や部品の組み立て作業を任されており、特に女子トイレ清掃を9ヶ所も行っているそうです。トイレ掃除をする理由は、「会社内や外部の人に気持ちよく使ってもらいたいから。」掃除をして良かったことは、「お疲れ様です。」「いつもきれいにしてくれてありがとうございます。」の言葉をもらえること、とありました。

誰かのために役に立っていることに喜びを感じ、会社で必要とされていることへの自信と誇りが文面から伝わってきました。

行田特別支援学校の卒業生がそれぞれの地域で必要とされ、自分らしく輝いています。一方で就職先が合わず、卒業後も自分に合う職場を探している方も少なくありません。「働き続ける」とは実はとても難しいことなのです。

自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するためのキャリア教育が小学部段階から必要だと言われており、本校でも研究が始まっています。

未来の卒業生の姿を浮かべながら、これからも学校としてできることに挑戦し続けていきたいと思います。



学校支援ボランティアの活動

本校では、今年度も学校支援ボランティアの方々が児童生徒の学習支援に協力してくださっています。令和5年度現在、本校の学校支援ボランティアの登録者数は17名、今年度実際に活動している方は15名です。

毎年本校が主催する「ボランティア養成講座」を受講し、講義や本校保護者の講話、ボランティア体験等の課程を修了した方が本校の学校支援ボランティアとして登録されます。学校ボランティアの育成は、共生社会の形成に向けて、埼玉県教育委員会が行っている事業です。

今年度も4月から、日頃の学習活動全般でボランティア活動を依頼しました。9月以降は、支援籍学習の引率で担任が出張している小中学部の学級での活動や高等部のマラソン大会での支援も依頼する予定です。

実際のボランティア活動は、登下校や教室移動、日常生活や授業での児童生徒の活動支援、給食用意や片付け等、1日を通して多くの場面で活動していただいています。

ボランティアさんの名前を覚え、一緒に活動したり触れ合ったりするのを楽しみにしている児童生徒もたくさんいます。また、ボランティアさんも児童生徒との関わりや成長を楽しみにしてくださっています。



< 中学部 作業学習 >



< 中学部 自立活動 >



< 小学部 給食 >



< 小学部 授業 >

